

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアの中核的な学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、2001年(平成13年)4月にオープンした。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開している。

大学等の『知』を活用した 地域の産業・学術の振興

アジアの中核的な学術研究拠点
新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と
豊かな生活を
創り出す

**アジアの
先端産業都市
の実現**

(北九州市産業雇用戦略の目標)

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、 研究開発型企业等を 同一のキャンパスに集積

- ◎国・公・私立大学(1学部4大学院)
北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科
九州工業大学大学院生命体工学研究科
早稲田大学大学院情報生産システム研究科
福岡大学大学院工学研究科
- ◎研究機関(16機関)
- ◎研究開発型企业等(54社)

研究者・教員・学生相互の交流と連携

- ◎進出大学による共同研究、教員等の交流
- ◎単位互換の実施
- ◎進出大学による連携大学院の運営
(連携大学院カーエレクトロニクスコース)
- ◎留学生支援

進出大学の教育・ 研究理念の共通化

- ◎先端的な科学技術分野での教育・研究の展開
- ◎産学連携の促進
- ◎起業家精神の育成
- ◎アジアの学術研究拠点の形成

キャンパスの一体的な運営、 施設の共同利用

- ◎学研都市進出大学の代表者で構成する
「キャンパス運営委員会」による
共同事業の企画・立案
- ◎図書室、情報処理施設、利便施設の共同利用



10年のあゆみ

北九州学術研究都市への道 [オープンまで]

学研都市をバネにして市勢浮揚へ

明治34年(1901年)、日本初の近代製鉄所「官営八幡製鐵所」の溶鋳炉に火がともって以来、北九州市は製鉄、重化学工業などの素材型産業を主体として発展し、「モノづくり」の街として我が国の近代化に大きく貢献してきた。

しかし、戦後の高度経済成長期以後、産業構造は大きく変化し、北九州市は構造不況に苦しむこととなった。

昭和62年2月、いわゆる「鉄冷え」のさなかに初当選した末吉興一市長は、翌63年12月に策定した「北九州ルネッサンス構想」で目指す都市像の一つとして「未来を開くアジアの学術・研究都市」を掲げ、「学術・研究都市づくり」を重点的な政策として取り組むこととした。そこには、先端技術の教育・研究を行う大学等の「知」を活用し、地域の産業・学術の振興を図り、北九州市の技術水準を飛躍させ、再びモノづくりの街として市勢を浮揚させるという目標があった。

そこで、まず北九州学術研究都市に立地する新しい大学の在り方について、検討が重ねられた。

平成元年3月、「北九州研究学園都市構想策定委員会」(委員長・川上秀光東京大学教授)が「北九州学術・研究都市基本構想」をとりまとめた。以後、平成8年発足の「北九州新大学設立検討委員会」(委員長・有馬朗人理化学研究所理事長)まで、学識経験者に

よる委員会から数次にわたり学研都市構想が提案された。

北九州学術研究都市構想

平成9年3月、「北九州新大学設立検討委員会」により「北九州学術・研究都市における新大学構想—国・公・私立大学の集積と連携による新しい大学の実現に向けて—」と題する報告書がまとめられた。この報告書で、「先端科学技術に関する教育研究を行う国・公・私立大学を集積し、共通の理念と方針のもとに互いに連携しながらアジアの中核的学術研究拠点を目指す」という、日本でも初めての取り組みとなる基本的な考え方が示されたのである。

つまり、先端科学技術分野における複数の大学・研究機関を一つのキャンパスに集積し、相互の交流と競争によって、最先端の学術研究都市を形成する。そして、これら大学などの総合力を発揮して産学連携を推進することで、新たな産業の創出などの地域貢献を図る、というものである。

そして、これまで北九州地域に蓄積された技術を基盤にしながら、今後飛躍的に発展が見込まれる「環境」と「情報」を中心とした先端科学技術分野の大学・研究機関の集積を図ることとした。

国・公・私立大学を集積

大学の設立については、国・公・私立の理工系大学の集積を提案した新大学構想の趣旨に応え、平成12年4月、国立九州工業大学は、生命体工学研究科を開設した。生体の持つ機能を工学的応用の対象とするのは、日本初の試みであり、大きな期待が持たれた。

一方、北九州市は、新たな理工系大学の設置に向け、北九州市立大学(以下、「北九大」)がその中核となる工学部を設置する計画を立てた。市は、かつて公害を克服する過程で蓄積した技術を生かし、国際環境協力を積極的に取り組んできた。その実績の上に立ち、平成13年4月、アジアの留学生にも門戸を開いた国際環境工学部を開設した。

私立大学については、北九州市が早稲田大学の誘致に向けて活動した結果、平成13年4月に、早稲田大

